研修で
学校が
変わる

学力向上研修①まとめ

5月24日（木）県立福祉人材研修センター

思考ツールの活用による
主体的・対話的で深い学びの実現

講師　黒上　晴夫　氏　（関西大学　教授）

研修内容

1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
2　児童生徒の思考力の育成と思考ツールの活用

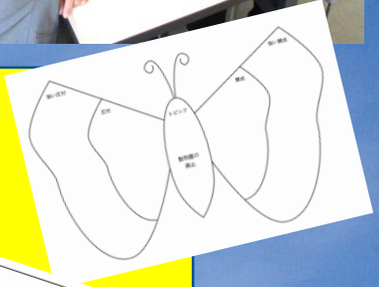
「思考力を育てる」とは、どういうことか。という例がわかりやすく授業でも使ってみたい。また、職員研修で思考ツールを紹介して、授業で広く活用できるようにしたい。

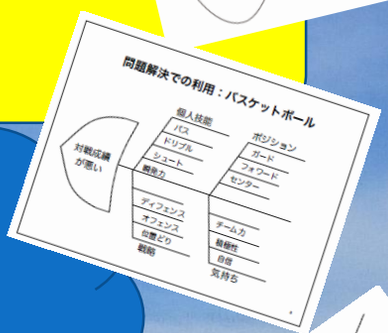
思考ツールとは、

○考えを可視化する
○考えを図形が導く
○言語で表されたものが考え

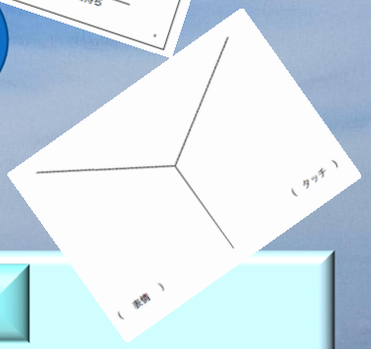
思考ツールの例

○フィッシュボーン（構造化する）
○バタフライチャート（多面的にみる）
○同心円チャート
○座標軸（X・Y・W）等々





多様な考え方を子どもから引き出していくには、「自由に「何でも」というあいまいな投げかけでなく、ある程度制約があることで出てくるということを改めて感じることができた。



結果としての「思考」に焦点化

○ターゲットにする思考スキルを明確にする
○思考スキルを用いる課題を設ける
　・目当てを思考スキルの視点で明確化（共有）
　・アイデアを共有する場面の設定（共有）
　・アイデアを操作することの意識化（可視化）
○アイデアを処理する方法を示す
○結果としての思考についてフィードバック

思考ツールの効果

○話し合いがスムーズ・活性化
○人の頭のリソースを借りやすい
○考えの理解を促す（子ども/教師にとって）
○他教科、生活場面で自発的に使うようになる
○内面化される（ツールが要らなくなる）
○思考のメタ認知が進む
○何度も使うことで違いが見える